

八丈島 水産だより 1月号 2013



本年もよろしくお願ひいたします。

今年の正月は昨年よりも寒く、八丈島には珍しく10℃以下の日が数日続きました。1月4日には、島の消防団の勇ましい「出初式」が末吉小学校で行なわれました。消火の実演のあと、各地区の消防団が、紅白の「くす玉」めがけてホースの水を勢いよくかけました。子供たちは、割れた「くす玉」からたくさん出てきたカラーボールのうち景品がもらえる当たりのボールを、競ってひろいました。



去年は残念ながらムロアジやカツオなどがあまり獲れず、漁師さんは大変な年でした。今年こそは大漁となるよう、皆が祈っています。

ことし たいりょう いの
今年の大漁をお祈りします!

■ 頑張る女性部の皆さん!

八丈島漁協女性部「おさかな研究会」の皆さんは、新年早々、元気に作業を開始しました。島で水揚げされるムロアジやトビウオ、メダイやキメジなどをミンチや切身に加工して都内の学校に届け、学校の栄養士さんがおいしい給食をつくってくれます。「おさかな研究会」の皆さんは、学校の給食で美味しそうに食べている皆さんの姿を思い浮かべて頑張っています。



八丈島 水産だより 2月号

2013



アロエの花



春トビの初水揚げ！

八丈島の永郷地区にある公園では、アロエの赤い花が満開になっています。1月は、強い風で海が荒れて漁に出ることができない日が多かったので、漁師さんは大変でした。しかし、1月の終わりにになると春トビ（ハマトビウオ）が姿を見せ始めたので、風が弱くなった合間をぬって今年初めてのトビウオ漁船が出港し、春トビ（ハマトビウオ）が初水揚げされました。



ハマトビウオ

■ 八丈島に 春が来た！



春トビの島ずし

八丈島では春告魚と呼ばれる春トビ（ハマトビウオ）が春を知らせにやってきます。1月29日の初漁で、30日の朝には今年初めての春トビが水揚げされました。約3千7百尾と初漁にしては順調な出足でした。春トビは2月3日の節分の「島ずし」に欠かせない魚なので、島の人々は節分前になると「春トビはまだか。」と首を長くして待っています。春トビの初水揚げはあっという間に知れ渡り、島の人々に春を伝えます。

■ よる 夜のトビウオ漁

八丈島のトビウオはハマトビウオと呼ばれ、体の長さが50cm以上になる世界で一番大きなトビウオです。八丈島では、トビウオ漁を夕方から真夜中にかけて行います。夕方出港し、まず、島の近くでトビウオを探します。群れを見つけたらトビウオの通り道をさえぎるように長い網を海に垂らし、かかったトビウオを網ごと引き揚げます。



大きい！



網にかかった春トビを
みんなではずします。

東京都八丈支庁産業課 TEL. 04996-2-1113
<http://www.soumu.metro.tokyo.jp/09hatijou/index.html>

八丈島 水産だより 3月号 2013



フリージア



空港の近くにある八形山の「フリージアまつり」会場

いつもの年より寒い冬でした。まだ寒くて風が強く不安定な天気ですが、風のな
い時はポカポカと暖かく、しだいに春らしくなってきました。八形山のフリージア
畑では、約35万本のフリージアが観光のお客さんを待っています。3月20日か
ら4月7日には「フリージアまつり」が開催され、フリージアやあしたばの無料摘
み取り、八丈太鼓の体験やスタンプラリーなどを楽しむことができます。



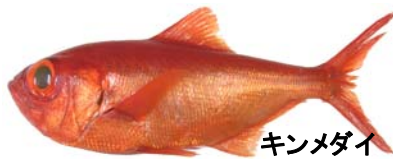
春トビを水揚げしてサイズ別に分ける

■ 天気との戦い！

強い風で海が荒れ漁に出ることができない
日が多く、漁師さんは大変です。海の天気を
注意深く予想し、海が穏かになる時を逃さず
皆でいっせいにしゅっこう出港します。島の漁港では、
春トビ（ハマトビウオ）やキンメダイ、メダ
イなどが水揚げされています。漁師さんが今
か今かと待ち望んでいるカツオは、まだほと
んど姿を見せません。



ハマトビウオ



キンメダイ



メダイ

■ 春トビの出荷

八丈島の春トビ漁は夕方から夜中まで行い、
夜明け前に漁港に戻ります。春トビを東京まで
運ぶ定期船は朝10時前に出港するので、獲
った春トビは朝一番で水揚げします。港でサイズ
別に分けられた春トビは、流れ作業であつとい
う間に発泡スチロールの箱に氷詰めになされま
す。そして、コンテナに積み込まれます。急が
ないと定期船に間に合わないの、朝の漁港は
緊張感がみなぎり活気にあふれています。



手ぎわよく春トビを出荷

八丈島 水産だより

4月号
2013



ハマビウオ



フリージアまつり会場(25/3/26)

今年ことしの八丈島はちじょうしまの冬ふゆは、例年れいねんよりも気温きおんが低い日ひが続つきました。それでも3月がつの上旬じゆんから暖かい日あたたかいひが続ついたので、フリージアまつりかじょうの会場いろは、色とりどりの花はなが咲き、訪れた方々おとずかたがたを大歓迎だいかんげいしていました。

一方いっぽう、八丈島はちじょうしまを代表だいひょうするカツオ漁りょうは、相変わらず不安定ふあんていな漁模様りょうもようとなっています。はやく漁師さんりょうしたちの笑顔えがおがあふれる港みなとになることを願ねがっています。

さいきん りょうもよう

■ 最近の漁模様は？



カツオ水揚げ



キンメダイ水揚げ

今年ことしもカツオ漁りょうは、安定あんていしていません。そこそこ釣つってくる日もあれば、よくない日ひもあります。船ふねによっても様々さまざまで、みんなが大漁たいりょうの時ときはほとんどありません。あまりにもカツオが釣つれないので、漁師さんりょうしたちのなかには、かわりにキンメダイねらを狙ねらって漁りょうに出でている人もいます。トビウオひとと並ならんで八丈島はちじょうしまの春はるを告つげるカツオたいりょうが大漁しまになると、島の港みなとはおおいに活気かっきづきます。

トビウオ漁りょうとキンメダイ漁りょうは安定あんていしていますが、多くおほくの漁師さんりょうしが行おこなうカツオ漁りょうの大漁たいりょうを期待きたいしているところです。

かいゆうぎよ かいさいちゆう

■ 海遊魚まつり開催中！

底土地区そこのちくにある漁師小屋りょうしごやでは、島しまを訪おとずれるお客さんきやくに無料むりようで島の味しまあじを楽したのしんでいただく「海遊魚まつり」が行かいゆうぎよわれています。八丈町はちじょうまちから頼たのまれた漁協女性部ぎょきょうじよせいぶの人達ひとたちが、新鮮しんせんなお刺身さしみや手作てづくりのムロアジメンチカツ、トビウオのすり身揚げみあげ、島の焼酎しましちゆうなどでお客さんきやくを歓迎かんげいしています。ご希望きぼうの方かたには、予約よやくをいただいたうえで「魚さばき体験」も行おこなっています。運うんがよければ、新鮮しんせんなおいしいカツオのお刺身さしみが食たべられるかもしれませんよ。4月の土・日・祝かつどにち日の午後2時から4時ごごまで、好評開催中こうひようかいさいちゆう！



会場内の模様



料理の一例

八丈島 水産だより

5月号
2013



ハマボスの花



しょうがくせい かいひんせいそう
小学生による海浜清掃

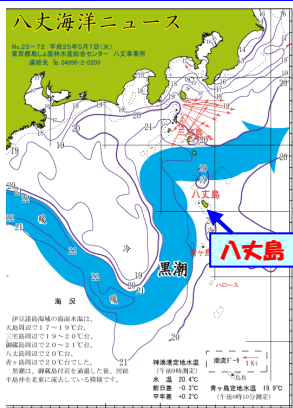
5月に入り、さらに日差しが強くなってきました。先日、小学生による砂で八丈島などを形作る砂浜アートと海浜清掃がありました。本格的な海水浴シーズンを前に、浜をきれいにするための活動です。浜ではハマボスの花が満開です。今年の大連休は晴天に恵まれ、ダイビングや釣り、温泉などを楽しむたくさんの観光客で島はにぎわい、早くも海で泳ぐ家族連れも見られました。

はる

春のカツオは？



たるづ
カツオの樽積み



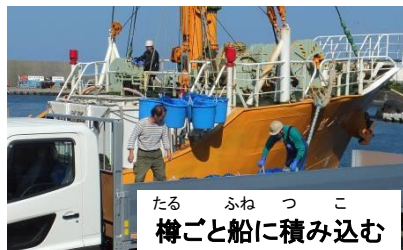
八丈海洋ニュース

相変わらずカツオ漁は、安定していません。釣れるときもあればダメな日もあり、船によってもまちまちです。蛇行した黒潮が少しずつ八丈島に近づいてきています。流れとともにカツオを運んでくれることを願います。東京都島しょ農林水産総合センターでは、黒潮の流れをホームページで紹介しています。漁師さんたちはこの情報を見てカツオのいる場所を予測します。

また、トビウオの獲れる時期も終わりに近づき、トビウオの大きさが少し小さくなってきたようです。



カツオ



たる ふね つ こ
樽ごと船に積み込む

あさいち やさい にゅうか

朝市に野菜も入荷

漁協女性部の朝市に地元で獲れた野菜も仲間入り。農協女性部が作った色取り鮮やかな野菜が並び、お客さんがさらに増えてきています。



あさいちかいじょう ようす
朝市会場の様子



八丈島 水産だより

6月号

2013



ニオイウツギ



今年の田植えのようす

例年より早く梅雨に入った地方が多いなか、八丈島でも雨の季節がはじまりました。八丈島はとて雨が多く、昨年の気象庁の統計では全国154観測地点中第5位でした。このように雨が多いため、年間を通じて湿度も高めです。梅雨の時期はさらに高く、カビなどの対策に工夫が必要です。

今年も田植え体験が晴天のもと行われました。地元保存会による田植え歌と石投げ踊りのあと、参加者は田んぼに入り、泥に足を取られながらも、田植えを楽しみました。

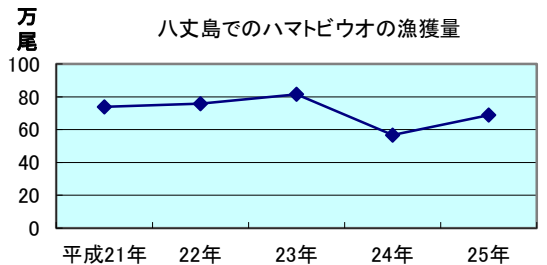
■ 今年のトビウオ漁が終わりました

1月からはじまったトビウオ漁が5月下旬に終わり、約69万尾の漁獲がありました。東京都島しょ農林水産総合センター八丈事業所によると、昨年は3月に八丈島の周りが冷水塊（周囲よりも冷たい海水域）に入ったため、トビウオ（ハマトビウオ）の群れが島から離れ、水揚げが少なくなったが、今年は昨年のようなことはなく安定した漁模様だったとのことです。

トビウオ漁が終わり、現在、ほとんどの漁師さんはキンメダイ漁などの底魚一本釣漁業を行っています。



ハマトビウオ



■ カツオのしま模様は？



魚のしま模様は、クイズになることが良くあります。さて、左の写真のようなカツオのしま模様は「たて」「よこ」どちらでしょうか？

せきつい動物では、背骨（脊髄）に平行となるしま模様を「たて」、垂直になるしま模様を「よこ」とします。魚の都合、頭を上にして考えるとわかりやすくなります。

答えは「たて」です

八丈島 水産だより

7月号

2013



ハイビスカス



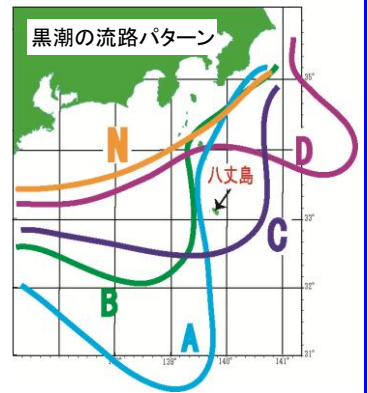
保安林での植樹の様子

島のあちらこちらにあるハイビスカスが色鮮やかな花を咲かせて、本格的な夏の訪れを告げています。

強い風から田畑や住宅を守る「防風保安林」をつくるために、地元小学4年生によるクロマツの植樹が行われました。事前の授業で森の大切さを学んだ子供たちは、元気に育ってくれることを願いながら、1本ずつ真剣に植えていました。

黒潮の蛇行

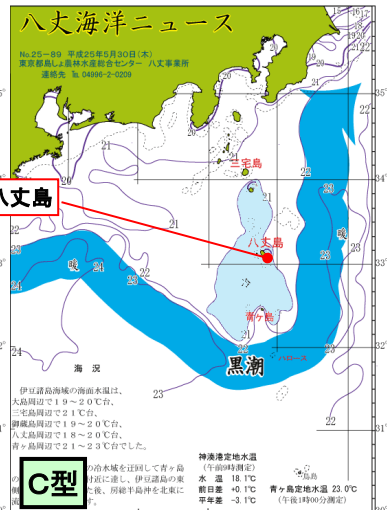
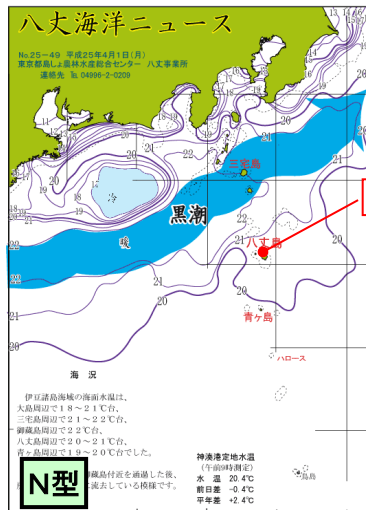
黒潮は、日本列島の太平洋側を西から東へ流れる暖流で、海の中にある大きな川のようなものです。その幅は50~100km、人が歩く2倍ほどの速さで流れています。運ばれる海水の量は毎秒5,000万トンに達します。プランクトンが少ないため透明度が高く、光が深くまで届き、濃い青色に見えることから「黒潮」という名前がついたと言われています。流れ方は右図のように、大きく5つの型に分けられます。



今年4月上旬、黒潮はN型と呼ばれる直線的な流れをしていましたが、だんだんと蛇行しはじめ、5月後半にはC型と呼ばれる八丈島の南側を回るような流れになりました。黒潮が蛇行すると、黒潮と本州南岸の間に下層の冷たい水が湧き上がり、冷水塊と呼ばれる冷たい大きな海水の塊が発生することがよくあります。冷水塊に覆われた八丈島では、漁港での海水温が18~20℃と例年より2~3℃低くなりました。さらに干潮の時、大きく潮が引くために、ふだんは海の中にある岩などが水面から出てしまい、海藻が枯れて白くなり、磯が真っ白に見えました。



大きく潮が引いている磯



八丈島 水産だより

8月号

2013



ハイビスカス



底土海水浴場のようす

関東地方は例年より半月ほど早い梅雨明けとなり、八丈島でもまぶしい日差しが振り注いでいます。夏休みに入り、連日多くの来島者で空港や船客待合所がにぎわっています。お盆には、家族や親族が島に戻り、花火大会や盆踊りなどを楽しまします。島で打ち上げられる花火は、街灯などの光の影響が少なく、夜空にくっきりと浮び上がり、とてもきれいです。

りょう

■ムロアジ漁がはじまりました

今月1日からムロアジ（クサヤモロ）の棒受け網漁がはじまりました。昨年は台風など、荒天のため海に出られない日が多く、漁獲量が少なかったです。

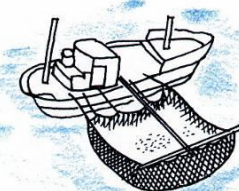
島しょ農林水産総合センター八丈事業所による事前調査では、今年は、この時期としてはやや大きいサイズが多いとの結果が出ています。12月末までの漁の期間、天候が安定し、出漁日が増え、豊漁になることを願います。



操業のようす



クサヤモロ



棒受け網漁

えいようし

けんしゅう

おこ

■栄養士さんの研修を行いました



調理実習



アシタバ畑の見学

都内小中学校の栄養士さんを対象とした給食用地場産物生産現場研修を実施しました。給食で使うムロアジやアシタバがどのように漁獲、栽培されているのかを、実際に見て、より理解し活用してもらうためのものです。

また、漁協女性部が講師となり、ムロアジのメンチカツやトビウオのすり身汁などの調理実習も行いました。



八丈島 水産だより

9月号
2013



ハマアザミ

八重根から八丈小島の方を望む



朝晩がだんだんと涼しくなり秋の訪れを感じます。夏休みが終り、海水浴場の観光客は少なくなりましたが、島の子どもたちは、まだ元気に泳いでいます。

月初め、八丈島からは遠く離れた沖縄近くの台風の影響で、島の西側はうねりが入り、波が高くなりました。また、強い南西の風とともに台風からの湿度の高い空気が入り、八丈富士や三原山、八丈小島などの山にぶつかり、たくさんの雲ができていました。いつもは山の頂上部だけにかかる雲が、水蒸気の量が多いためか、帯のように長く伸びていました。

■キンメダイ 漁獲量過去最高！

八丈島で最も漁獲量の多い魚種がキンメダイとなつてから数年となります。今年はキンメダイの漁獲量が統計を取りはじめてから最も多くなることが確定しました。8月末ですでに約367tを漁獲、これまで年間漁獲量のもっともおかたつた平成21年の約360tを超えました。春のカツオ曳縄漁が不漁で、多くの漁師さんがキンメダイなどの底魚一本釣り漁へ切り替えるのが早かつたことも、理由のひとつと考えられます。



水揚げされたキンメダイ



■ムロアジ漁 順調です！



漁船から水揚げ



選別機にかける

先月からはじまつたムロアジ漁は、現在3隻の漁船で行われています。それぞれの漁船は1日に獲る量が決められており、その量を獲ると港に帰ってきます。水揚げされたムロアジはすぐに大きさに別に分けるため、選別機にかけられます。

鮮度の良いムロアジを目当てに、港には「くさや」の加工業者が集まります。希望する大きさのムロアジを買つると、少しでも鮮度の良いうちに「くさや」にするため、すぐに加工場に戻って行きます。

八丈島 水産だより 10月号 2013



ハチジョウススキ



八丈町南原スポーツ公園野球場

9月28日から10月8日まで54年ぶりに東京で第68回国民体育大会が開催され、八丈島では9月29日から10月2日の4日間、公開競技の高等学校野球(軟式)が行われました。今年度の全国高等学校軟式野球選手権大会の出場チームから選抜された9チームと東京都(開催県)の代表を加えた計10チームによりトーナメントが行われ、熱戦が繰り広げられました。

■台風襲来!! 船を守る

台風前の神湊漁港



防波堤を越える高波



対岸の船にもロープを渡す

八丈島のある伊豆諸島は広い海に囲まれ、波の高い日が多く、漁港は高い防波堤で強固に作られています。しかし、台風が近づいたときなどは、防波堤を越えるような高波もあります。

そこで、台風が近づく前に、漁師さんたちは大切な漁船を守るため、岸壁から少し離し、さらに隣り合う船同士だけではなく、対岸の船ともロープでつなぎ、全ての船をお互いにつなぎ合わせ、波で大きく揺れてぶつかり合うことのないようにします。

■トミメはどこへ...



トミメ(ナメモンガラ)

棒受け網漁



トミメのフライ

8月からはじまったムロアジ棒受け網漁は、順調な漁が続いています。しかし、今年はすこし様子が違います。いつもムロアジに混じって網に入ってくるトミメ(ナメモンガラ)の姿がありません。

現在、黒潮が大きく蛇行し、八丈島のはるか南を流れており、島の周りは冷水塊(冷たい海水のかたまり)に入っています。暖かい海水を好むトミメは島周りに離れ、水温の高い水域にいると考えられます。フライ用の給食食材としても人気のあるトミメなので、この先の漁模様が気になります。

八丈島 水産だより 11月号 2013



ストレリチア

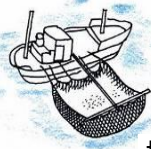


小学校運動会

毎年11月3日に、島内の小学校の運動会が一斉に行われます。この運動会、小学生のものだけではなく、地域の運動会でもあります。応援席は地域ごとに決まっております、プログラムの中に地域対抗リレーがあるほどです。

運動会が近づくと大人も子供も練習に熱が入ります。昼間は主役の小学生、夜になると地域のリレー選手たちが校庭で練習を行い、運動会当日に備えます。

ムロアジ漁 順調です



棒受け網漁



8月からはじまったムロアジ棒受け網漁は、順調な漁が続いています。今年は八丈島に影響のある台風が多く、風が強かったり、波が高かったりと、キンメダイやメダイを獲る底魚一本釣りの漁師さんたちが漁に出るには厳しい日が続いています。そのような状況でも、比較的漁港から近いところで操業できるムロアジ漁の漁師さんたちは出漁しています。漁期も後半になり、大きく育ったムロアジがたくさん獲れています。

海遊魚まつり 開催中!!



今年も底土地区にある漁師小屋では、無料で島の味を楽しめる「海遊魚まつり」が行われています。八丈町からお願いされた漁協女性部が、新鮮な刺身や女性部自慢のムロアジメンチカツ、トビウオのすり身揚げ、島の焼酎などでお客さんを歓迎しています。またご希望の方には事前予約で「魚さばき体験」も行っています。11月中の土・日・祝日の午後2時から4時に開催しています。ぜひお立ち寄りください。

八丈島 水産だより

12月号

2013



ツワブキ



キダチアロエ

12月に入り、島内でも、色とりどりのクリスマスイルミネーションを見かけるようになりました。

島の西側の永郷地区にある、大越鼻灯台近くのアロエ園では、キダチアロエの花が咲きはじめました。キダチアロエの花は空港前の道路など、島内のあちこちでも見られます。ツワブキやキダチアロエの花が咲くと冬の訪れを感じます。

冬になると島では強い西風が吹くため、海が荒れ、漁師さんたちは漁に出られない日が多くなります。

■ 還住丸 引退間近



八丈島と青ヶ島をむすぶ「還住丸」が12月末に引退します。平成4年1月に就航してから22年間、八丈島と青ヶ島の間で人と荷物を運んできました。

船名の「還住」は1785年（天明5年）に起きた大噴火で、やむなく青ヶ島を離れ、八丈島に避難した島民が、50年余りの苦難の末に再び青ヶ島で暮らせるようになったことを表すことばです。

平成26年1月から新船が就航します。

■ クサヤモロ



クサヤモロはアジ科のムロアジの仲間です。大きくなると体長50cmを超えます。名前からもわかるように「くさや」に加工されます。島では鮮度が良いうちに刺身でも食べ、とても美味しいです。

八丈島の周りで体長20～30cmくらいの群れがよく見られ、棒受け網漁で漁獲されます。夏には海水浴場で一緒に泳げることも。体側には美しい青い線があり、「アオムロ」とも呼ばれます。

